2026 年 10 月 27 日

株式会社森とみずのちから
高砂熱学工業株式会社

地域資源を活用したエネルギー供給事業の実現へ
小水力発電を活用したグリーン水素供給事業に関する協定を締結

株式会社森とみずのちから（本社：奈良県吉野郡、代表取締役：貝本隆三、以下/森とみずのちから）と高砂熱学工業株式会社（本社：東京都新宿区、社長：小島和人、以下/高砂熱学）は、「小水力発電を活用した地産地消型のグリーン水素供給事業に向けた協業に関する協定書」を締結しましたので、お知らせいたします。



（左から）高砂熱学工業㈱ 山本研究開発本部長、㈱森とみずのちから 貝本社長、高砂熱学工業㈱ 村岡カーボンニュートラル事業本部長

■協定締結の背景

政府は、2050 年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「カーボンニュートラル目標」の実現に向け、再生可能エネルギーの導入を進めています。小水力発電はその一つです。他の再生可能エネルギーと比較し、天候の影響を受けにくい安定電源であり、設備寿命が長く、高い発電効率を有するとされています。また、全国の小規模河川における導入が可能であり、地域資源を活用した新たな事業創出による地域活性化への貢献が期待されています。

一方、グリーン水素は、再生可能エネルギーから製造可能なクリーンエネルギーであり、貯蔵・運搬できることが特徴です。また、電化が困難な産業領域や運輸分野などにおける脱炭素化の有効な手段として注目されており、再生可能エネルギーの導入拡大やエネルギー利用の高度化に貢献します。地産地消のエネルギー供給を通じて、従来の化石燃料を代替することで環境負荷を低減していきます。

■両社の役割

森とみずのちからは、山が持つ自然資本の価値向上と地域活性化を目指す小水力発電事業を軸として、事業適地の調査や開発などを行っています。昨年度、高砂熱学と小水力発電を活用したグリーン水素供給事業モデルの確立に向けた「戦略的事業提携に関する協定書」を締結した飛騨五木ホールディングス株式会社の関連会社です。これまで森とみずのちからでは、北海道から九州まで小水力発電の可能性地点を発掘しており、各地で未来を共創できるパートナーと連携協定を締結しています。各地で協業を進める中で脱炭素先行地域事業にかかわるなど、地産地消スキームに率先して取り組んでいます。今回の事業では、小水力発電所建設に向けた地域調整や事前調査、測量・設計などを担当します。

高砂熱学は、空調設備の設計・施工を中心に培ってきたエンジニアリング力を活かし、カーボンニュートラル事業の確立に向け、地産地消のグリーンエネルギー供給事業や水素製造技術の開発に取り組んでいます。また、約 20 年前より建物で利用するためのエネルギーとして水素に着目し、水素製造技術の開発を進め、2025 年度より大型水素製造装置「Hydro Creator™」（水素製造能力：最大 100N ㎥/h）を市場展開しています。今回の事業では、小水力発電所の建設や水素製造・供給施設の建設、水素供給事業などに関する業務を担います。

本事業では、長野県、茨城県、新潟県および鹿児島県などを対象に、事業スキームに応じて特別目的会社（SPC）を設立し、小水力発電および水素供給事業を進めます。

両社は、本事業を通じて、地域資源を活用したエネルギー供給事業の実現を目指し、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

【お問い合わせ先】
株式会社森とみずのちから　Mail：info@tpfw.co.jp　担当：高岸
高砂熱学工業（株）コーポレート・コミュニケーション室　Mail：pr1969@tte-net.com

■両社概要

【株式会社森とみずのちからについて】 https://tpfw.co.jp/
2022 年 12 月に吉銘グループ（本社：奈良県吉野郡下市町大字新住 1118、代表取締役：貝本隆三、以下吉銘グループ）と飛騨五木グループ（本社：岐阜県高山市江名子町 2715－11、代表取締役：井上正博、以下飛騨五木グループ）の協業によって設立。

【高砂熱学工業株式会社について】 https://www.tte-net.com/
1923 年創立以来、空調設備の設計・施工を中心に、人に優しい快適空間の創出、高度に管理された生産工程環境の構築、AI を活用した設備の最適な運転や省エネのコンサルティングなど、建物ライフサイクル全般にわたってのトータルなサービスを、日本全域・中国・東南アジア・インド・メキシコで展開。グループパーパス「環境革新で、地球の未来をきりひらく。」のもと、心地よい環境を創造する「環境クリエイター®」として脱炭素・サステナブル社会の実現に寄与する技術・サービスの創出に取り組んでいます。